

小・中学校

平成12年度

教育研究員研究報告書

教 育 課 題

東京都教育委員会

平成12年度
教育研究員名簿（教育課題）

地 区	学 校 名	氏 名
新宿区	花 園 小 学 校	山 田 順 子
大田区	東 蒲 小 学 校	◎ 秋 元 桂 子
北 区	赤 羽 小 学 校	去来川 恵 子
板 橋 区	上坂橋第二小学校	○ 小 池 いずみ
葛 飾 区	南 綾 瀬 小 学 校	江 方 正 浩
八王子市	松 木 小 学 校	内 田 克 美
立 川 市	第 五 小 学 校	服 部 謙 一
武蔵野市	大 野 田 小 学 校	境 野 宏 樹
中 央 区	日 本 橋 小 学 校	田 中 広 行
台 東 区	蓬 萊 中 学 校	新 井 稔 秋
江 東 区	深 川 第 五 中 学 校	海 藤 美 鈴
大田区	南 六 郷 中 学 校	日下石 直 美
板 橋 区	中 台 中 学 校	川 合 一 紀
八王子市	松 木 中 学 校	小 池 寿 人
西東京市	ひばりが丘中学校	○ 山 口 修
羽 村 市	羽 村 第 二 中 学 校	平 岡 直 実

◎世話人 ○副世話人

(担当) 教育庁指導部指導企画課指導主事 宇 田 陽 一

目 次

I 研究主題	
1 主題設定の理由	2
2 研究の仮説	2
3 研究構造図	3
II アンケート調査の内容・考察	
1 調査のねらい	4
2 調査内容	4
3 調査結果・考察	5
III 実践事例 1（小学校第 4 学年 体育科）	
1 単元名	8
2 研究主題との関連	8
3 学習指導計画	9
4 本時の学習	10
5 授業分析	11
IV 実践事例 1 まとめ	
1 研究の成果	12
2 今後の課題	12
3 規範意識をはぐくむための手だて	13
V 実践事例 2（中学校第 1 学年 国語科）	
1 児童・生徒の規範意識の実態	14
2 研究の視点との関連	14
3 教科・教材	15
4 学習指導計画	15
5 本時の指導	16
6 授業を振り返って	17
VI 実践事例 2 まとめ	
1 研究の成果	18
2 今後の課題	18
3 授業における規範意識にかかわる行動	19
VII 実践事例 小中交流集会（小学校第 4 学年、中学校第 3 学年）	
1 研究の仮説との関連	20
2 議題	21
3 本時に至るまでの活動	21
4 本時の活動	22
5 授業を振り返って	22
VIII 研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

I 研究主題

規範意識をはぐくむ指導法の工夫

1 主題設定の理由

私たちは学校教育の中で、児童・生徒が心身ともに健康であり、自ら課題を発見し解決する、人として調和のとれた発達を促す教育活動を推進しようと努力している。

しかし、児童・生徒の状況は、基本的な生活習慣の未確立、自然体験・社会体験・集団遊びの減少、指示待ち傾向の増大、人間関係の希薄化、規範意識の低下などの要因から、今までに見られなかった態度や行動となって、私たちの目の前に現れるようになってきた。

その中でも、特に児童・生徒の規範意識の低下は、「挨拶ができない」「ルールを守れない」「善悪の判断がつかない」などの行動を生じさせ、よりよい社会を形成するための弊害となることはもとより、児童・生徒の健やかな成長を阻害する要因として、決して見過ごすことのできない問題であるとして、本主題を設定した。

2 研究の仮説

規範意識をはぐくむためには、社会の変化や保護者の要望を認識しつつ、児童・生徒の発達特性を把握し、それらを生かした指導を展開していくことを基盤に置いた。

また、規範意識に関わる児童・生徒の発達段階を次の3ステップとしてとらえた。

そして、各ステップでの認識をはぐくみ・伸ばすためには、「基本的な生活習慣の見直しをしていくこと」と「自立を促し、集団の中で主体的に生活すること」を念頭に置いた取組をしていくことが重要であると考えた。

規範意識をはぐくむ3ステップ

ステップ1

○マナーの必要性の認識・他者に認められることにより進んできまりを守ろうという習慣や態度（自己認識）

ステップ2

○集団生活を送るためのきまりの必要性の認識・よりよい集団にするためにきまりを守ろうとする行動（集団の中の自己）

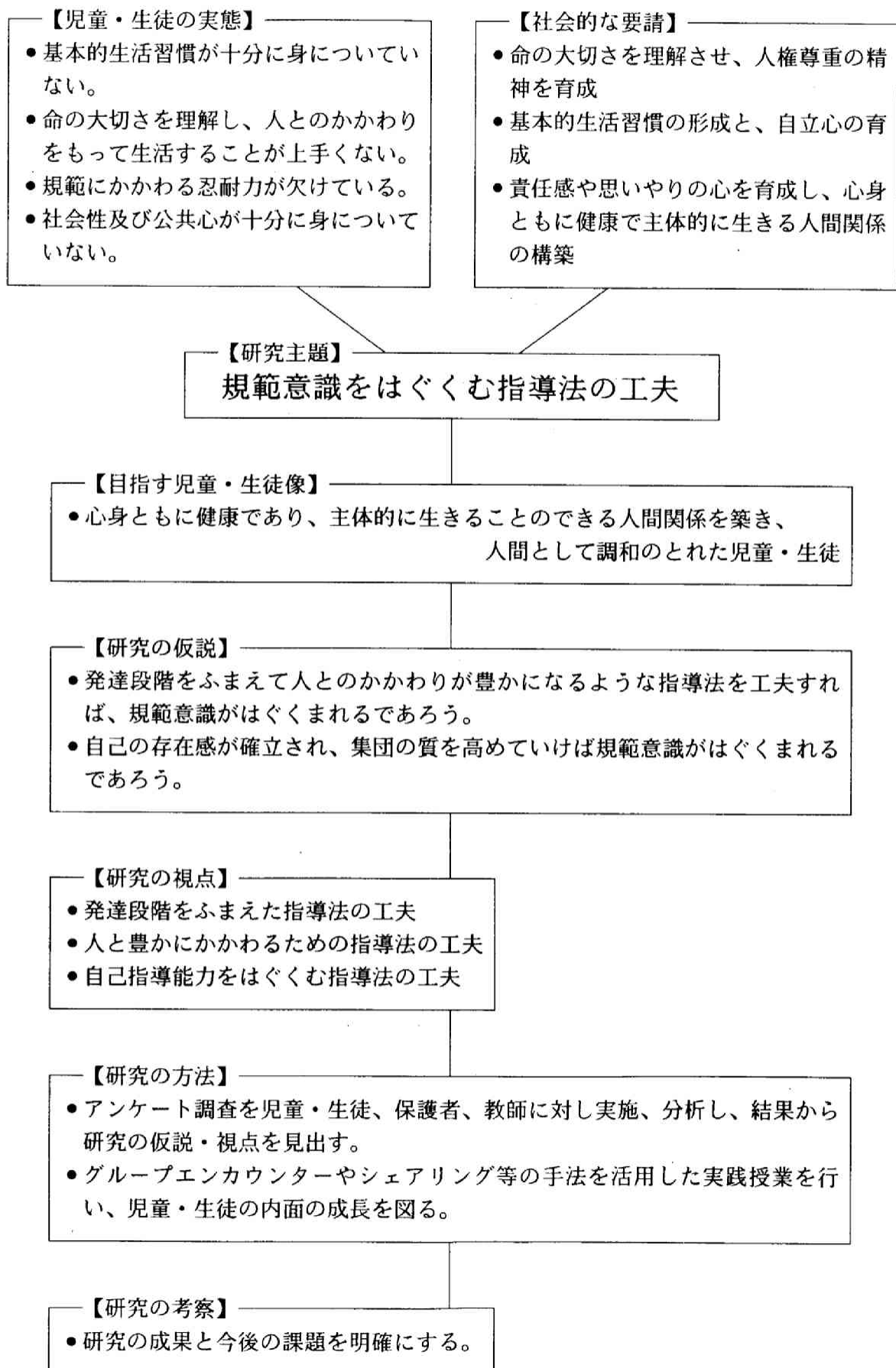
ステップ3

○集団生活のきまりについての自分なりの考え・集団の一員としての自覚、ルールづくりに参加するなどの行動（自我の形成）

このような仮説を設定し、児童・生徒の発達段階をふまえながら、人との関わりが豊かになるような活動や集団の質が高まるような指導法の工夫を行った。

研究を進めるにあたっては、児童・生徒・教師・保護者に対してアンケート調査を行い、その中から研究の視点を見出し、2分科会に分かれて研究・考察を行った。

3 研究構造図



Ⅱ アンケート調査の内容・考察

1 調査のねらい

本調査は、「規範意識をはぐくむには、どのようなことを指導し、内面を育てていったらよいか。」を知るための一環として実施した。ねらいは、以下の3点である。

- (1) 「学校生活に関するアンケート」（全8項目）を小学生と中学生を対象として実施し、その意識と行動の傾向を知る。
- (2) 保護者、教師にアンケート調査を実施し、保護者や教師の意識と、保護者や教師から見た児童・生徒の行動の傾向を知る。
- (3) 学校教育の中で規範意識をはぐくむには、どのようなことを指導し、内面を育てていったらよいかを知る資料とする。

平成12年の7月上旬から中旬にかけて、都内のいくつかの小中学校に協力いただき、対象人数は、小学校低学年866名、高学年892名、中学生797名、保護者1,745名、教師205名である。

2 調査内容

児童・生徒用は、全8項目にわたっての具体的な事例をあげ、それぞれに対する「意識」（思っていること、誰の影響が強い）と「行動」（できているか）について、4つの選択肢の中から1つを選ぶことを基本とした。当初は、強い肯定・弱い肯定・弱い否定・強い否定の選択肢を作ってみたが、プレ・アンケートを実施した結果、“強い否定”は認めづらい様子がうかがえたため、これを“わからない”に変更し実施した。

(1) しつけについて（保護者、教師対象）

- ① 自分が子どものころ、家庭でのしつけは厳しかったと思うか。
- ② 自分の子どもに対するしつけは、厳しいほうだと思うか。（児童・生徒はしつけられているか）
- ③ 最近の子どもたちを見て感じること。＜自由記述＞

(2) 学校生活について（児童・生徒、保護者、教師対象）

- ① 朝、「おはよう」のあいさつを交わしたり、人に親切にしてもらったときに「ありがとう」を言うこと。
- ② 授業中の先生の説明や、友達の意見をしっかりと聞くこと。
- ③ 友達に何か嫌なことを言われても、けして暴力で応えてはいけないこと。
- ④ 何か気に入らないことがあっても、誰かを無視したり、仲間はずれにしたりしないこと。
- ⑤ 休み時間だからといって、廊下を走ったり、自分勝手に大きな声でしゃべったりしないこと。
- ⑥ 学校の本を乱暴に扱ったり、自分で使っている机を傷つけたりしないこと。
- ⑦ 休み時間などに、自分たちが使ったボールなどを、きちんと片づけること。
- ⑧ 遊びたくても、係の仕事や給食・掃除当番の仕事をきちんとすること。

上記①～⑧の内容を、4つの大項目として分類した。①②は「Ⅰ 基本的生活習慣」に関

すること、③④は「Ⅱ 人とかかわり」に関すること、⑤⑥は「Ⅲ 公共心」に関すること、⑦⑧は「Ⅳ 責任感」に関すること。

(3) 上記①～⑧のような「意識」は、教育活動の中で、どのような場面で指導し、意識付けしていくと良いのか。できれば具体的な実践例を交えて。＜自由記述＞（教師対象）

(4) 学校での教育活動の中で、「規範意識をはぐくむ」ためには、どの教科・領域での指導が有効か。＜選択肢と自由記述＞（教師対象）

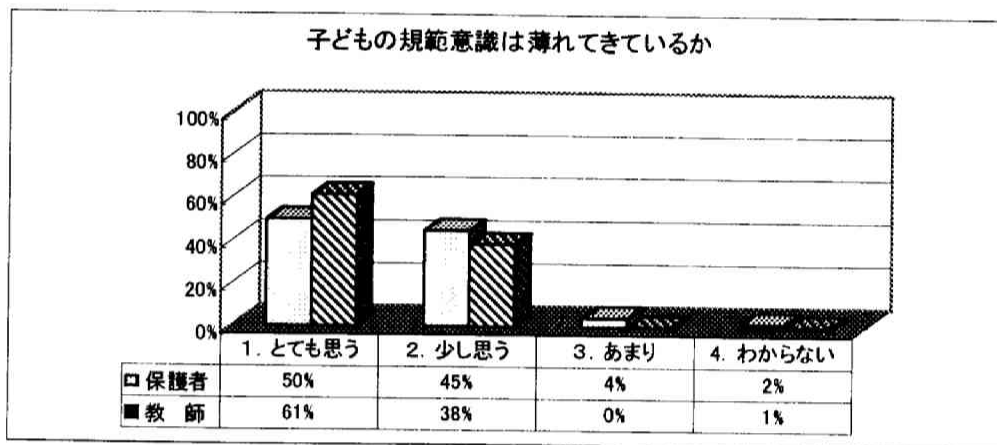
(5) 最近「子どもの規範意識が薄れてきているのではないか。」と言われているが、このことについてどう思うか。＜選択肢＞（保護者、教師対象）

(6) 「子どもの規範意識を薄れさせている原因となっている事柄や、原因になりそうな事柄。」は何か。＜23の選択肢・複数回答、自由記述＞（保護者、教師対象）

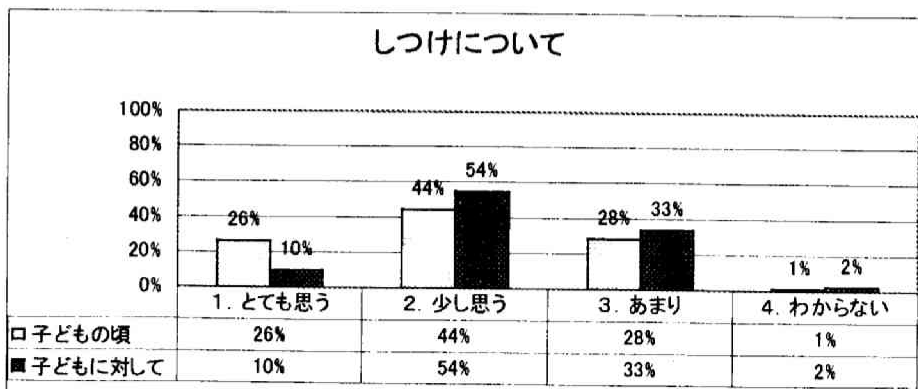
3 調査結果・考察

(1) まずはじめに、最近「子どもの規範意識が薄れてきているのではないか。」と言われていることに関する、保護者と教師の調査結果である。

保護者、教師ともに、5割以上の人が「とても思う」と回答している。「少し思う」も含めるとほとんどの保護者と教師が、「子どもの規範意識は薄れてきている。」ととらえている。

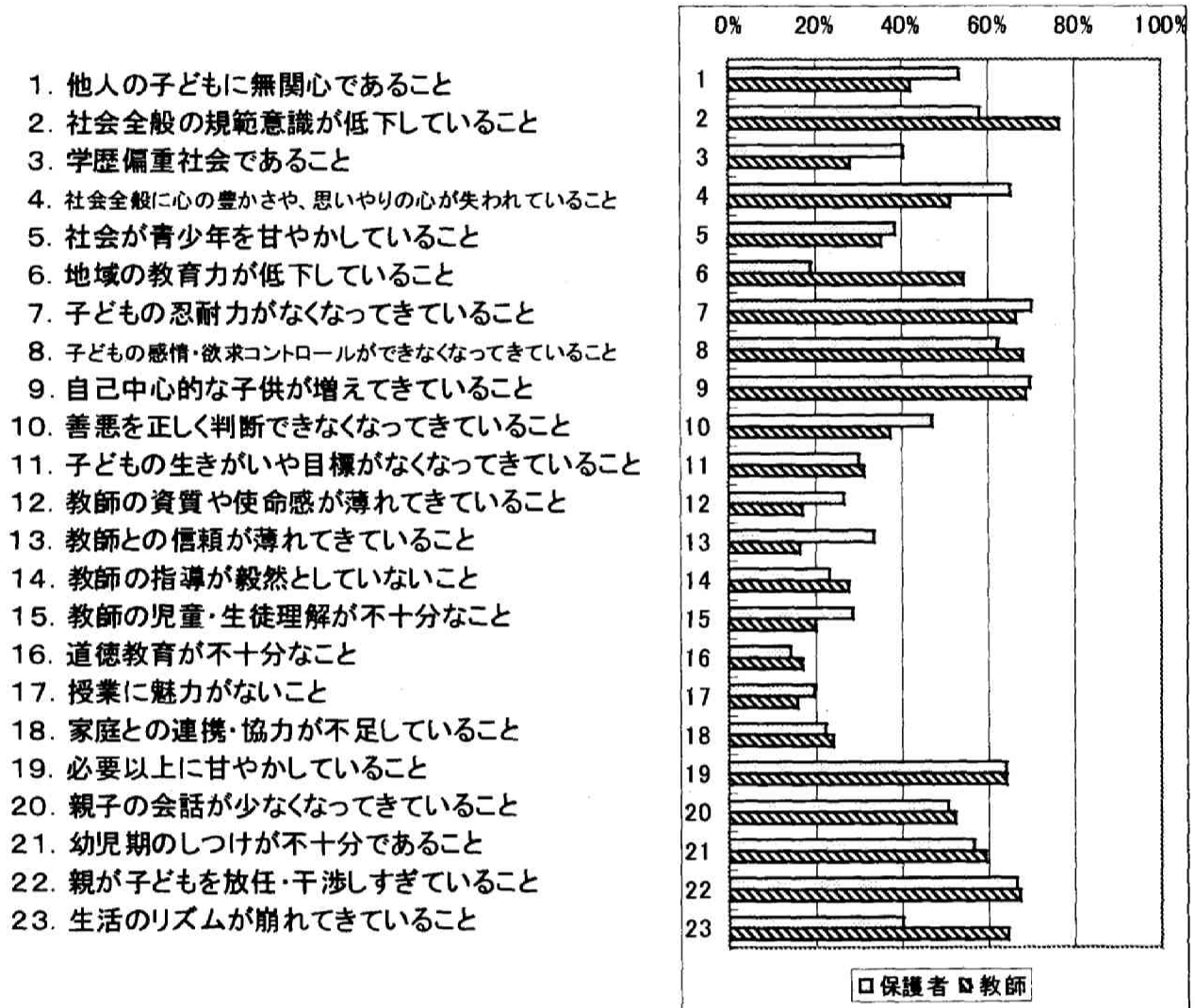


(2) 次に、「しつけについて」の項目で、「保護者自身が子どものころ、家庭でうけたしつけは厳しかったか。自身の子どもに対するしつけは厳しいほうだと思うか。」についての調査結果である。



保護者自身が子どものころに受けたしつけの方が、自身の子どもに対して現在しつけていることよりも、やや厳しかったと回答している。しかし、6割以上の保護者が「自身の子どもに対するしつけは厳しいか」の問いに対して、「とても思う」「少し思う」と回答しているということは、家庭でのしつけは充分に行われているととらえることができる。

(3) さらに、「子どもの規範意識を薄れさせている原因となっていることがらや、原因になりそうなことがら。」は何なのか、について保護者と教師の調査結果である。

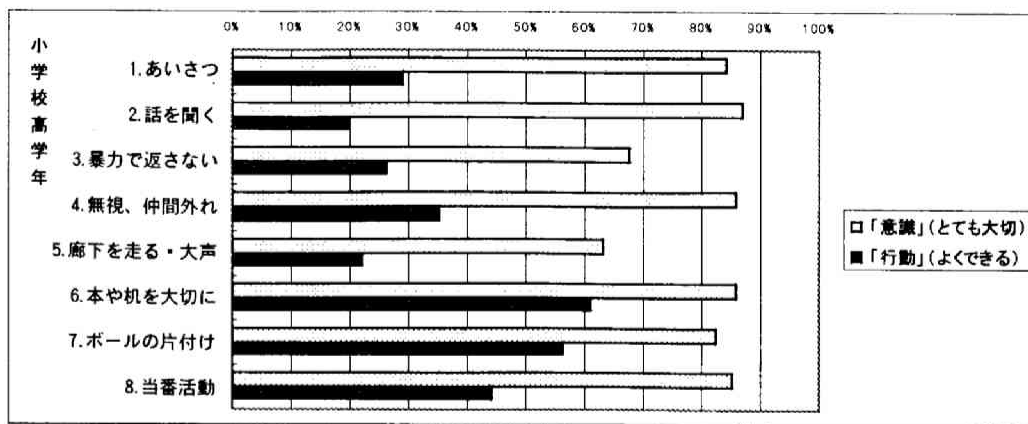


選択肢の7、8、9にみられるように、「規範意識を薄れさせている原因」として子ども自身の変容をあげている回答も多いが、19～22でわかるように、親と子のかかわり合いがうまくできていないことをあげている回答も多い。

(4) はたして児童・生徒の「意識」と「行動」は一致しているのだろうか。

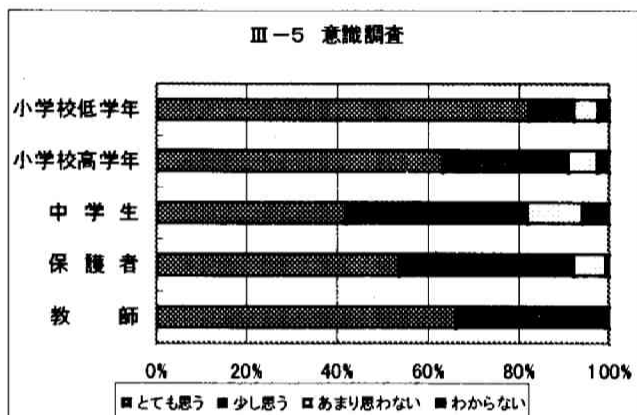
ここでは、小学校高学年の調査結果をもとに、「意識」（とても大切）と「行動」（よくできる）を取り上げて表にしてみた。

小学校高学年の児童の「意識」と「行動」は、一致しているとは言えない。項目ごとにそのズレの大きさに違いはあるが、どの項目も「意識」は高いが、「行動」が伴っていないことがわかる。このことは、低学年や中学生においても同様な結果として表れている。



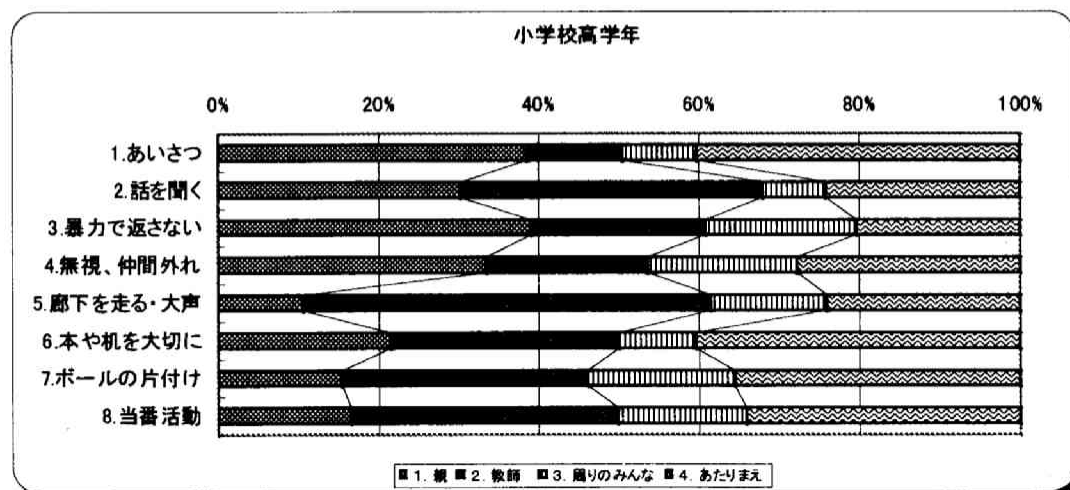
このことから、児童・生徒の「意識」と「行動」は、必ずしも結びついていないととらえることができる。

- (5) では、発達段階による、「意識」の高さに違いはあるのだろうか。具体的な項目を1つ取り上げて比較してみる。「休み時間だからといって、廊下を走ったり、自分勝手に大きな声でしゃべったりしないことは大切なことだ。」に関する調査結果である。(Ⅲ-5)



小学校高学年、低学年、中学生ともに、比較的「意識」は高いことがわかる。しかし、「とても思う」の項目に注目すると、明らかに学年が上がるに従って回答が減ってきている。つまり、発達段階により「意識」の高さに違いが見られ、高学年になるに従って、「意識」が低下していくととらえることができる。

- (6) 最後に、それぞれの「意識」は誰の影響が強いのであろうか。
ここでも、小学校高学年の調査結果に関して、取り上げて表にしてみた。



各項目ごとに、それぞれ影響を受ける人に違いがあることがわかる。規範意識をはぐくむ上では、いろいろな人とのかかわりが大きな影響を与えるととらえることができる。

Ⅲ 実践事例1 (小学校第4学年 体育科)

実践事例1では、集団の中で規範意識をはぐくむこと、自己を振り返り自己を見つめ次に生かそうとする気持ちを育てることを、研究の視点に迫る方法であると考えた。

1 単元名 表現運動 「花火」

2 研究主題との関連

(1) 発達段階をふまえた指導

小学校の4年生は、高学年の始まりの時期として友達との関連が深まり始め、グループでの活動を好むようになり、いろいろな友達と交わって考えや活動が広がる時期ととらえている。このような時期に身体活動を通して花火の動きを友達と協力して作ることで、友達や自分自身のよさに気づき協力して活動することの楽しさを実感できるであろう。

(2) 人と豊かにかかわるための指導

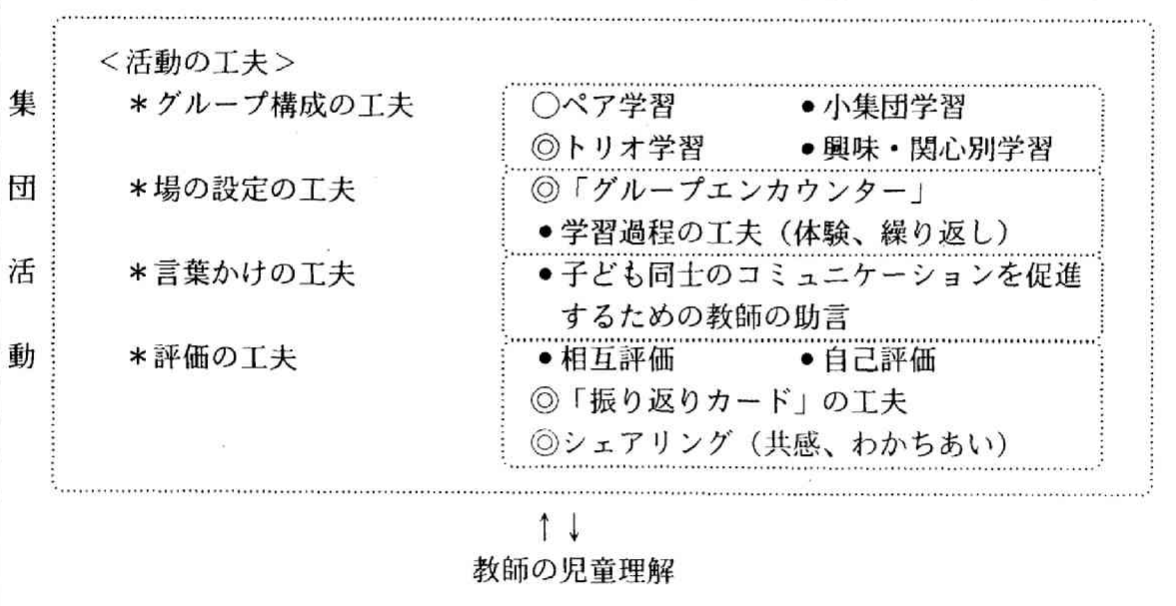
人数制限、課題別というグループ構成の条件の中で、誰とでも協力して活動しようという気持ちを育てたい。活動していく中で子ども同士の葛藤がたくさん起こると考えられるが、それを児童がお互いについて考えるよいチャンスととらえたい。相手を思いやる・心の動きを察する・誘う・断るなど様々な経験をするが、このようなことが人間関係の豊かさにつながると考える。

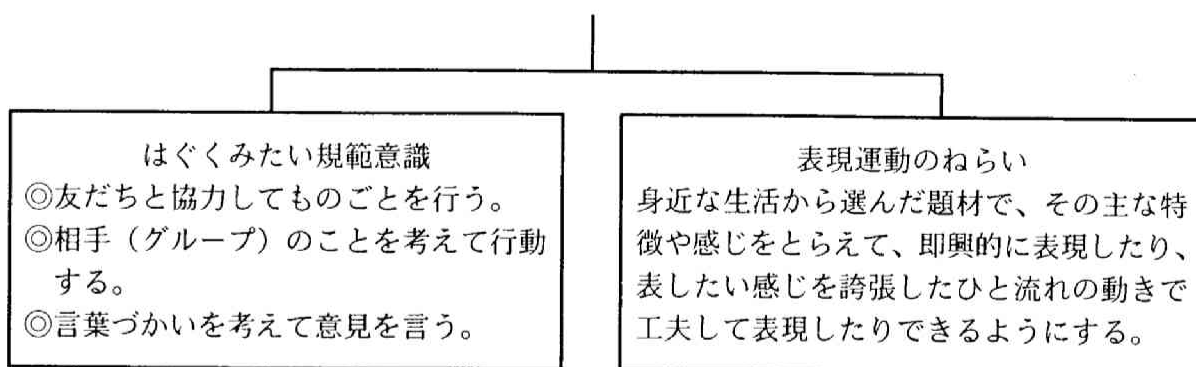
(3) 自己を振り返る力(自己指導能力)をはぐくむための指導

自己の体験を客観的に振り返ることにより「体験」を「経験」に高めることができると考える。そのために「振り返りカード」を活用することにした。カードの蓄積により、子どもたちの変容を観察できると考えている。また、自分や友だちの体験を共有(シェアリング)することにより共感したり、自己存在感を確認したりすることができると考える。

表現運動「花火」

「花火」という題材は、時期的には最適であり、児童にとっても身近なものである。児童は今までに何回も「花火」を経験してきたと考えられる。それをもとに表したい動きをとらえて、自由に工夫して表現できやすく、また、楽しんで活動できる題材である。





3 学習指導計画（4時間）

	学 習 活 動	（教科に対する）指導	はぐくみたい規範意識にかかわる行動
1	花火についてイメージをもち、表現活動の方法を知る ①表現活動の方法を知る ②「ふり返りカード」を書き、発表する	- リズムをとるためにリズム太鼓をたたく - 手や足を大きく使わせる - 動きやすい音楽を流す - 動きがわからない子には助言する	★← ★話手の顔を見て聞く ○← ○誰とでもペアを作れる 記号の意味 ◎・・・重点化 ★・・・定着化 ○・・・準備期
2	全員でねずみ花火 ①ねずみ花火を見る ②ねずみ花火のイメージカードを作る ③教師の伴奏に合わせて即興で動いてみる ④トリオを作り、三回繰り返し、動く練習をする ●色々な花火をする	「音」「動き」「思ったこと」を表現するようなげかける - リズム太鼓を使って臨場感を出す - よい動きがあればほめる - 必要に応じて助言する ●方向を変える ●とび出すタイミングをずらす - いい所や「こうするとよくなるよ」などを言い合えるように助言する	★← 話し合いのルールを守る ○← 誰とでもトリオを作る ★← 終わったら自分たちのものと比較するなどして待つ ★← 動く時の約束を守る ◎← 他のトリオのこと考えて活動する
3	本時の学習		→ 学級活動
	ペアグループ同士見せ合いながら動きを高める	- 火がつき始めたところと火が消えていくところの動きの工夫を助言する - 場所を大きく使う点を助言する	★← 約束を守って練習する

4	①前時を思い出し練習をする ②ペアグループ同士見せ合いをする ●ジャンケンで順番を決める ③発表会をする ④「振り返りカード」を書き、発表する	●ペアグループのよいところを見つけるよう助言する	◎← 他のグループのことを考えて行動する ◎← 相手の気持ちを考えて意見を言う ◎← 発表のマナーを守る
---	---	--------------------------	--

4 本時の学習（45分×4回扱いの3回目）

(1) ねらい

- 題材から動きやリズムをとらえ、特徴が表れるようにグループで表現することができる。
- 誰とでも、気持ちを合わせて楽しく踊ることができる。
- 相手のことを考えグループづくりができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教科に対する指導	はぐくみたい規範意識にかかわる行動
導 入	①集合・整列をする ②本時の学習内容を聞く ③進化ジャンケンをする ④準備運動をする（南綾瀬体操）	●学習の流れを簡潔に伝える ●音楽にのってジャンケンするよう声をかける。 ●伸び伸び準備運動ができるように声をかける。	★← きちんと挨拶をする ★← 教師の話をきちんと聞く
展 開	自分のやりたい花火を決め、グループになり、動きをつくる ⑤グループ作りのルールを聞く ⑥表現したい花火ごとにグループになる ⑦グループごとに、「イメージカード」を元にしながらか動きをつくる	●発達段階を生かしたグループピングの条件を提示する ●3～6人のグループ ●興味・関心別グループ ●花火の名前を板書しておく ●ビデオを用意し、いつでも動きのイメージをつかみやすくしておく。	○← ルールづくりの参加 ○← 約束を守る ◎← 誰とでもグループを作れる ◎← お互いのことを考えながら活動する ○← 自分のグループのことを考えながら活動する
ま と め	⑧「振り返りカード」を書き、発表する ●よかったところを出し合う	●特徴をとらえた動きをほめ、みんなの動きをつなげてみることを助言し、グループの動きをひろげ	★← 挙手をし、自分の意見をしっかりと言う

⑨整理運動をする	ていく ●まとまらないグループには、一緒になって口伴奏をしながら動きをつくる
----------	---

5 授業分析

(1) はぐくみたい規範意識より考察

- ① グループづくりの場面では、誰かが一人になったり人数が多すぎていきかいなどを起こすこともなく、比較的スムーズに行うことができた。これは、普段から相手のこと（気持ち）を考えて行動できる児童が育っているからだと言える。しかし、グループの構成を見ると、やはり仲良しの友だちが集まっていることが多く、男子と女子が一緒のグループになったのは一組しかなかった。普段あまり話さない友だちなどが一緒になるような方法を、児童と一緒に考えていくことが必要である。
- ② グループづくりの場面で自分から他のグループに移った児童は、誰とでもグループを作ることができ、規範意識が育っていると考えられる。このような児童をシェアリングの中で教師が認めることで、リーダーが育ち、学級の規範も高まると考えられる。

(2) 児童の変容 ……「振り返りカード」より考察

児童	興味関心	グループ作り	協 力	第 1 時	第 2 時	本 時	第 4 時
A 男児	④④④④	④④④④	④④④ ③	グループ作りではすぐに相手が見つかった	グループがすぐに決まった。爆発の時体を使った	相談して大きく動けた。順番に動くのを工夫した	ジャンボナイアガラが大きく動いていた
B 女児	④④④④	④④④ ③	④④④ ③	1回目は速い動きで疲れた。2回目は楽しくできた	相手のいい所を見つけてアドバイスしてあげられた	やっているうちに「こうしよう」と声をかけられるようになった。	みんながやっているのを見て頑張っている姿が分かった
C 男児	④ ③③ ③	④ ③③ ③	④ ③③ ③	グループがなかなか決まらなかった		見せ合いでいいところを言ってもらえてよかった	1組は2組と動きが違って工夫していた
D 女児	④④④④	④④④ ③	④④④④	O君は変わった動きをするので、まねをするのが楽しかった	A君は帽子を足につけて火の代わりにしたのがよかった	4人で息があったときがあった。先生にはめられた	O君の意見で、体育館の円を使って回った

- ① 「振り返りカード」でシェアリングを行うことで、“自分”のことだけでなく“他のグループ”のことも意識するようになってきている。
- ② アドバイスしたり、されたりすることが、自分たちの活動を活発にし表現を深めていることに気付いている。また話し合いの中心になるリーダーが自然に発生したグループは、更に活動が活発になる。
- ③ 友だちのかかわりが上手くできると学習意欲が高まる。
- ④ 教師に誉められることは、児童の意欲を喚起させる。児童が誉めてもらいたいと思ったときに、的確に評価することが大切である。

IV 実践事例1 まとめ

1 研究の成果

(1) 人と豊かにかかわろうとする心の発達段階

人と豊かにかかわろうとする心の発達段階とそのために必要な具体的な技能を明らかにするために、一覧表（p13表参照）を作成した。その結果、小学校高学年では、集団の中での自分の役割に気づくこと、協力することでの達成感を味わうこと、自分や友達のよさに気づくことが大切であることが分かった。またそれを可能にするためには、相手のことを考えながら、はたらきかけ方・お願いの仕方・断り方・感情のコントロールの仕方などの技能を身につけることが必要であることが分かった。

(2) はぐくみたい規範意識にかかわる行動

規範意識は、児童の行動によって見取ることができると考え、各時間・学習活動ごとに、はぐくみたい規範意識にかかわる行動を明らかにした。さらに重点化・定着化・準備期など発達段階に照らし合わせることで、指導の焦点がより明確になった。

また、児童の変容をとらえ適切な助言や励ましができるよう、「教師による行動調査チェック表」を作ったことにより、教師の評価は、児童のよりよい行動の指針となり、意欲にもつながった。

(3) シェアリング

発達段階によって、いろいろな方法が考えられる。実践事例1では、「振り返りカード」を活用した。授業の終わりに記入することにより、児童は自分の学習活動を振り返ることができた。また、グループや学級全体で発表し合うことによって、自分の思いが受け入れられたと感じたり、他者の気持ちを聞いて新たな気づきが生まれたりすることがわかった。このことは、より豊かな人間関係をはぐくむことになる。

2 今後の課題

(1) シェアリングを充実させた指導

シェアリングによって豊かな人間関係を築くことができるが、本実践では十分に活用できたとはいえない。十分な時間と場所を確保するなど授業の構成を工夫する必要がある。また、話す・書く、小グループ・学級全体でなど方法についても深めていきたい。

(2) 集団の中で個を生かす指導

集団の中での自分の役割に気づき行動することは、自分の存在感を確認することであり、規範意識を育てるための大きなポイントとなる。そのための技能を身につけさせるために、教師は十分な手だてを考えなければならない。

(3) 継続的な指導

一単元の実践では児童の変容を見るのは難しく、また大きく変容するものでもない。時間をかけて心と技能を育てていく必要がある。多様な場面で実践し、研究していきたい。



規範意識をはぐくむための手だて

	小学校低学年（１～３年）	小学校高学年（４～６年）	中 学 校
規範意識にかかわる子どもの特徴	○マナーの必要性がわかる。 ●教師や大人からよい行動を誉められた、友達から信頼を得られることによって、進んできまりを守ろうとする習慣や態度が身につく。	○快適な集団生活をおくるためのきまりの必要性を理解する。 ●きまりについて話し合い、よりよい生活にするために、進んできまりを守ろうとする。	○集団生活のきまりについて自分なりの考えを持つ。 ●集団の一員としての自覚が高まり、よりよい集団を作るためのルールづくりに参加するなどの行動をとろうとする。
自己をふりかえり、人と豊かにかかわろうとする心の発達の特徴	●自分のことについて話ができる。 ●自分のよさや特徴に気付く。 ●自分と友だちの違いに気付く。 ●自分と他の人とのつながりを感じる。 ●友達と協力することのよさが分かる。 ●自力でもめごとを解決しようとする意欲を持つ。 ●友だちと協力する中で、友だちや自分のよさに気付く。 ●よい言葉、いやな言葉に気付く。	●相手の心の動きを感じ、相手を思いやることができる。 ●チームワークの大切さに気付く。 ●集団の中での自分の役割に気付く。 ●協力して完成させる達成感を味わうことができる。 ●自分の成長に気付く。 ●望ましくない人間関係を改善し、よい関係を作ろうとする。 ●自分について振り返る中で、自分や友だちのよさに気付く。 ●親しい友だち以外の人と活動することで、今まで気づかなかった友だちのよさに気づく。	●自分のものの見方や特性などについて、考えることができる。 ●他人から見た自分について考えることを通して、自己を見つめ直すことができる。 ●自分のことについて、他人に素直に話することができる。 ●相手の考えを理解し、認めることができる。 ●相手を一人の人間として尊重することができる。
自己をふりかえり、人と豊かにかかわろうとする心を育てるための具体的な指導の内容 (ソーシャルスキル)	*誰にでもあいさつをする。 *自分のいいところを自己紹介する。 *相手の話をきちんと聞く。 *適切な質問の仕方を身につける。 *友だちの誘いかたを身につける。 *自分から仲間に入る方法を身につける。 *温かい言葉のかけかたを知る。	*相手を受け入れながら話を聞く。 *相手の気持ちをわかり、はたらきかける。 *相手の気持ちや立場を尊重しながらお願いをする方法を身につける。 *断る方法とその正当さを学ばせる。 *拒否の仕方や身の安全を守る方法を身につける。 *多くの解決策を考え、よりよい選択ができるようにする。 *自分の感情をコントロールする方法を身につける。	

*低学年では、繰り返し指導して、定着を図る。

*年齢があがると、前の段階でのスキルができていることを押さえてから指導を進める。

*児童・生徒の実態に応じて指導する。

参考文献 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」 国分康孝 監修
「エンカウンターで学級が変わる」 国分康孝 監修
(図書文化)

V 実践事例2（中学校第1学年 国語科）

1 児童・生徒の規範意識の実態

実践事例Ⅱでは、アンケート調査の結果をもとに、児童・生徒の規範意識は高いが、それを実践していく力（規範実践能力）が不足していることに着目した。特に児童・生徒の学年が進むにつれて規範意識が建前となってしまう、規範意識を実践し、人としての生き方に結びついていないのではないかと考えられる。そこで、規範意識を行動化し、規範実践能力を身につけさせていくための方法「規範意識にかかわる行動」を考察することにした。

教師は日常の教育活動を通して、児童・生徒の規範意識をはぐくむ指導をしている。それを計画的かつ継続的に指導することを、「規範意識にかかわる行動」の観点とした。

2 研究の視点との関連

(1) 発達段階をふまえた指導

中学生の時期では身体的にも精神的にも子どもから大人への移行期と考えられる。この時期は、一般的に自我に目覚め、大人の干渉を嫌うようになる（第二反抗期）と言われている。また、他人の目を意識し、自分から恥をかく行動を警戒するようになる。さらに、自己顕示欲が強くなり、他人に認めてもらいたい意識が出てくるのもこの時期である。反面、主体性のない行動もみられ、物事を茶化して安易に行動しようとしたり、集団の中に自分を同質化させて、精神的な安定を保とうとしたりする。

このような中学生の時期に見られる「規範意識」は、表面的な建前の規範意識が多く、自発的な規範遵守行動が伴っていない場合が多い。したがって、しつけ的な要素の指導よりも、生徒自身の内面にかかわる指導に重点を置きたい。

(2) 人と豊かにかかわるための指導

本研究では、人と豊かにかかわることによって、集団としての質が高まり、個の存在感が増大するであろうと考えた。このような集団の中では、互いに高めあうことができ、規範意識もはぐくまれることが期待できる。

そこで、本時では、グループエンカウターの手法を用いて、まず、作品に対しての自分の考えを相手に正しく伝える学習を行う。さらに、人の意見の要旨をまとめながら、互いの感想のよいところや共感できるところについて、話し合いを深める。グループ活動の終末においては、互いの考え方や思いを認め合い、共有し合う（シェアリング）活動が中心となる。

(3) 自己指導能力をはぐくむための指導

本研究では、規範意識をはぐくむためには、自らを律し、正しく行動できる能力（自己指導能力）の育成が重要な課題であると考えた。

そのため、本時ではグループエンカウターにより話し合いのルールを高めさせ、生徒が主体的に話し合いのルールを守り、学習していく活動を行うことにした。教師は、生徒の話し合い活動が円滑に行われているかを観察し、時に援助しながら、自己指導能力の育成を図りたい。

3 教科・教材

中学校第1学年 国語科

『アイスクャンデー売り』（随筆 立原えりか作 三省堂「現代の国語1」より）

4 学習指導計画（5時間扱い）

	学 習 活 動	指導上の留意点	「はぐくみたい規範意識」 にかかわる行動
第一時 限	教材について関心をもち、感想を抱く - 戦争について知る。 - 作品の通読。 - 初読の感想。	- 作品の背景にある戦争について説明する。 - 作品の範読をする。	★話の聞き方。
第二時 限	登場人物の心情を読みとる 「アイスクャンデー売り」の心情を読みとるとともに、「小学生の行った行動」を考える。	「アイスクャンデー売り」の行った「ふしぎな行動」を中心に彼女の心情を読みとらせるとともに、小学生の行動も考えさせる。	◎登場人物の気持ちを考える。 ★自分の考えをしっかりともつ。 ★友だちの考えを認める。
第三時 限	作者が作品を通して伝えたいことを読みとる 作者がこの作品を通して読者に伝えたいことを考える。	「アイスクャンデー売り」の心情と戦争の背景にある悲劇を考えさせる。	◎人の心の痛みを感じる。
第四時 限	作品の主題を考え、感想文を書く 戦争に関する他の作品を読み、それと併せて今回の作品を通して感じたことを書く（感想文）。	戦争に関する他の作品を読むことで、今回学習した事柄についての考えを深めさせる。	◎班学習のルールづくりへの参加。 ★ルールを守る。
第五時 限	感想発表会を通して、作品の世界を広げる 班ごとに分かれて感想を発表しあい、友だちがどのように感じたかを知ることで、作品の世界を広げる。	一人一人感想を読ませ、また、友だちの感想を聞くことで、作品の世界を広げるとともに戦争についてより深く考えさせる。	★発表のマナーを守る。 ◎お互いのことを考えながら活動する。 ※詳細は「本時の指導」を参照。

★ ……「定着化」したい規範意識 ◎ ……「重点化」したい規範意識

5 本時の指導（本時は第5時限目）

(1) ねらい

感想発表会を通して、作品の世界を広げる。

(2) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	「はぐくみたい規範意識」 にかかわる行動と評価の観点
導 入	- 現在学習している教材の漢字練習をする。 - 挨拶 1. 本時の学習内容を確認する。 - 生活班を作る。	- 漢字練習をさせる。 - 前時までの授業の確認をし、本時の学習内容を確認させる。	★チャイムが鳴ったら着席をする。 ☐ 互いに注意をしながら、主体的に着席をしているか。 ★進んで学習の準備をする（4月に授業の受け方を確認済み）。 ☐ 進んで漢字練習をしているか。 ★気持ちのよい漢字練習をしているか。 ☐ 挨拶をしているか。 ★教師の話をきちんと聞く。 ☐ 真剣に聞いているか。
展 開	2. 班ごとに感想の発表会をする。 ①順番に自分の書いた感想を発表する。 ②一人の発表が終わったらメッセージカードによかったところを書く。 3. メッセージカードを基にして、班で感想のまとめをする。 4. 班での話の内容を発表する。	- 作品に対しての自分の考えを相手にわかりやすく伝えるように発表させる。 - 班員の感想のよいところを確認するように指示する。また、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるようにカードに記入させる。 - 読む人が不快に思わないような表現をするように指示する。 - 人の意見をどのようにとらえたかを素直に表現させる。 - みんなが強く感じたことを話し合いによって、まとめさせる。（シェアリング） - 友だちの意見をどのように思ったかを発表させる。	★発表時の約束ごとを守る。 ◎発表者の考えを相手を見てよく聞く。 ◎お互いのことを考えながら活動をする。 ☐ 発表会のマナーを守り、発表会の目的が達成されているか。 ◎班員の思いを理解する。 ☐ カードによいところを書いているか。 ★自分の考えをもち、相手に伝える。 ☐ カードに自分の考えを書いているか。 ★グループ内で感じたことを進んで発表する。 ☐ 共感的な終末が迎えられたか。
ま と め	5. 今回の教材のまとめの話を聞く。 挨拶	今回の教材について、まとめの話をする。	★教師の話をきちんと聞く。 ☐ 真剣に聞いているか。 ★気持ちのよい挨拶をする。 ☐ 挨拶をしているか。

★ ……「定着化」したい規範意識 ◎ ……「重点化」したい規範意識 □ …… 評価の観点

(3) 評価

- ア. 自分の感想や考えをしっかりと相手に伝えることができたか。
- イ. 発表者の話をよく聞き、自分のものと比較したり確認したりすることができたか。
- ウ. カードを読んで相手の考えを理解できたか。
- エ. 今回の教材について作品の理解を深めることができたか。

6 授業を振り返って

今回の授業では「人と豊かにかかわるための指導」として、グループエンカウターの手法を用いて実践授業を行った。そこで、3つの観点から気がついたことをまとめてみた。

(1) 「作品に対しての自分の考えを相手にわかりやすく伝えること」について。

自分の考えたことを相手に伝えることは、人とのかかわりの中で大切なことである。この場合、特に自分の考えを相手に「わかりやすく」伝えることが重要になってくる。

当初、生徒の中には、「自分の考え方や意見は正しいのだろうか。」「わかりやすく伝えることができるだろうか。」等、自分の文章や発表に自信がもてないためか、他の生徒の目が気になり、自分の考えを積極的に発表しつづけない生徒がいた。また発表しても、恥ずかしいのか、あまり大きな声で発表できない生徒もいた。

しかし、自分の作文を発表し、それに対しての他の生徒の意見・感想を聞いたり、また、他の生徒の作文を聞いたりするという活動を行うことで、「みんな同じような考えをしているんだ。」「自分の作文をほめてもらえてうれしかった。」という感想が聞かれるようになった。さらに発表するという活動を通して「みんなに自分の考えを聞いてもらえてよかった。」と考えられるようにもなった。これらの活動から生徒は、発表することのよさを感じ、そこから、自分の考えをわかりやすく伝えることの重要性に気付いていったようである。

(2) 「人の意見を聞いて互いのよいところや共感できるところについてまとめ、それを基にグループで話し合いをして考えを深めていくこと」について。

どの生徒も発表者の顔を見てよく話を聞いていた。そのため、発表者の意見に対して共感できる部分を見つける生徒も多かった。また、それをグループ内で出し合い、まとめる活動に入っても、一人ひとりの意見がしっかりしていたので、とてもまとめやすかったようである。ただ、グループごとに決めた司会者（リーダー）の進め方によって、まとめ作業に差が出たり、いい意見が出てきてもグループ内で取り上げられず、全体に広げられなかったりしたのは、とても残念なことであった。

(3) 「互いの考え方や思いを認め合い共有し合う活動をする事」について。

授業の終末で、グループごとにまとめた内容を発表し、いろいろな意見を聞くことで、自分の考えを深めることができた。さらに、いろいろな場面で話し合いや意見交換をしたことで、他の生徒の考えに対して共感することもできた。これらの活動を通して、「互いの考えや意見を認め合うことの大切さ」に気づくことができたようである。

VI 実践事例2 まとめ

1 研究の成果

(1) 発達段階をふまえた指導を通して

実践授業では、中学生期における発達特性を考慮し、生徒の内面にかかわる指導に重点をおいた。具体的には生徒の主体性を尊重したり、責任感をもたせることなどによって、定着化したい規範意識をはぐくむことができた。また、指導計画を工夫し、授業のねらいを明確にすることによって、生徒が具体的に取り組める状況ができ、教師が意図する話し合い活動が活発化した。重点化したい規範意識をはぐくむ手だてとなるであろう。

(2) 人と豊かにかわるための指導を通して

実践授業では、グループエンカウターの手法を用いたが、グループにおける話し合い活動においては、リーダーの果たすべき役割が大きいことが分かった。また、班員の考えをまとめたり、共感したりする作業においては、十分な時間の確保と話し合う手順やまとめ方の方法を明確にし、より工夫する必要があると感じた。さらに、計画的に話し合い活動の経験をさせながら、互いの感想の良いところや共感できるところについて話し合いを深めることで、共有し合う（シェアリング）活動が可能であることも分かった。

(3) 自己指導能力をはぐくむための指導を通して

実践授業では、グループエンカウターにおける話し合いのルールをつくり、生徒が主体的に話し合い、そのルールを守りながら学習していく活動を行った。生徒の話し合い活動が円滑に行われているかを教師が観察し、時に支援することで、主体的で活発な話し合い活動ができた。生徒一人一人の自己指導能力が育成されたかは、これからも継続的に指導し、追跡調査をすることが必要であると思われる。

2 今後の課題

規範意識をはぐくむ指導は、あらゆる教育活動を通して行うことが可能であろう。常に規範意識をはぐくむという観点を意図しながら指導・工夫することが、規範意識をはぐくむために重要な手だてになるということが分かった。

(1) 児童・生徒の規範意識をはぐくむための計画的・継続的な指導

規範意識をはぐくむ指導の研究を通して、児童・生徒の規範意識はすぐに変化し、行動化されていくものではなく、心の内面から少しずつ芽生え、フィードバックしながら行動化されていくことが分かった。教師はそのわずかな変化を大切にはぐくみながら、計画的・継続的に指導していくことが、重要である。また、児童・生徒の規範意識をより発展的にあらゆる場面に適応させていくために、どのような方法で発展・深化・行動化させていくかが今後の課題であろう。

(2) 豊かな人間関係をはぐくむためのリーダーの育成

規範意識をはぐくむには、個人の意識を高めることだけではなく、その個人が所属する集団の規範意識を高めることが最も重要である。特に学校においては、集団での指導場面が多く、互いのかかわり合いの中から個人の資質が育つ場面が多い。豊かな人間関係をはぐくみ、集団を育てるにはリーダーの存在が重要であり、そのリーダーとしての資質の育成が課題である。

授業における規範意識にかかわる行動（発達特性を生かして）

	小学生期 低学年（1年生から3年生）	小学生期 高学年（4年生から6年生）	中学生期
規範意識にかかわる 子どもの特徴 ＜参考＞平成2～4年度 児童・生徒健全育成推進資料 「子供たちの豊かな人間関係を育てるために」 東京都教育委員会	○多くの人が一緒に生活するためのマナーの必要性がわかる。 ○教師からよりよい行動をほめられたり、友達から信頼を得ることによって、進んでまわりを守ろうとする習慣や態度が身につく。	○快適な集団生活を送るためのまわりの必要性を理解する。 ○まわりについて話し合い、よりよい集団にするために、進んでまわりを守ろうとする。	○集団生活のまわりについて自分なりの考えを持つ。 ○集団の一員として、自覚が高まり、よりよい集団をつくるためのルールづくりに参加する。
導入	◆授業始業時の工夫 ○チャイム着席をさせる ○挨拶をさせる（授業終了時と同じ） ○提出物や忘れ物	○チャイムが鳴ったら、席に着くことをルールとすると共に、教師が手本を示し、主体的にしつける。 ●教師のかけ声・着席のサインを決めておく。など ○授業始業時には挨拶をすることを意識させると共に人間関係を築く基礎を養う。 ●教師から声をかけ、児童に声をかけさせる。など ○提出物や忘れ物をしないといった学習準備の習慣化を図ると共に、教師が主体的にしつける。など ●教師による忘れ物等のチェックをする。など	○チャイムが鳴ったら、自分から席に着くように意識させると共に児童が主体的に行える工夫をする。 ●教師のかけ声・係児童のかけ声・自己評価など ○挨拶の必要性を理解させると共に、基礎となる礼法を身につけさせる。 ●係児童の号令によって、児童が挨拶をする。など ○学習準備の習慣化が図られているか常に自己評価させる。協力しあえる態度を養う。 ●グループ活動によって忘れ物調べなど
	◆授業のルールづくりの工夫 ○授業を進めていく上での必要最低限のルールを決め、教師が絶えずルールを再確認しながら、児童にわかりやすく簡単に守らせる方法を工夫する。 ●「お口はチャック」「おへそは前」「目は先生」など	○授業におけるルールを絶えず再確認しながら、児童が主体的にルールを守っていく工夫をする。 ●グループによる授業態度の評価など	○時計を見て自分から席に着くようにさせると共に、互いに注意できる人間関係を築く基礎を養う。 ●係生徒のかけ声・自己評価・教師の評価 など ○挨拶を通して、豊かな人間関係を築く基礎を養うと共に、応用し、実践する態度を養う。 ●係生徒の号令によって、生徒が挨拶をする。など ○学習準備の習慣化が図られているか常に自己評価させると共に、協力しあえる態度を養う。 ●自分から申し出る・呼びかけ合う。など
	◆授業のルールづくりの工夫 ○授業を進めていく上での必要最低限のルールを決め、教師が絶えずルールを再確認しながら、児童にわかりやすく簡単に守らせる方法を工夫する。 ●「お口はチャック」「おへそは前」「目は先生」など	○授業におけるルールを絶えず再確認しながら、児童が主体的にルールを守っていく工夫をする。 ●グループによる授業態度の評価など	○授業におけるルールを絶えず再確認しながら、生徒が互いに協力してルールを守る工夫をする。 ●係生徒による授業態度の評価・反省・発表 など
展開	◆話し合いの工夫 ○グループづくり ○話し合いのルールづくり	○児童一人一人が自分の意見や考えを発表できる場や条件を教師が意図的につくるように心がける。 ●お誕生日班・列ごと（1号車・2号車）など ○人の意見や考えを聞き、人の意見の要旨を理解させ、自分の意見や考えをまとめて発表する。 ●意見や考えをまとめるカードの活用など	○生徒一人一人が自分の興味・関心等に応じて、意見や考えを深め合うことができるようなグループづくりを心がける。 ●ペア・トリオ・課題別・興味関心別・相互指名など ○意見や考えの交換を通して、互いに深め合えるような話し合いのしかたを工夫する。 ●ポストイットでまとめる。キーワードでまとめる。など
	◆教師のかかわり方の工夫 ○できる限り一人一人に声をかけ、その子のよさを認める。 ●「～がいいよ」「～ができていてね」など	○一人一人のよさを見いだしながら、集団の中で認め合う機会をつくる。 ●「～君の～がよかったよ」「～がすばらしい」など	○生徒同士でよさを認め合えるように、場面に応じて教師が支援する。 ●「～という場合もあるよ」「～ではどうかな」など
	◆学習方法における工夫 ○集団指導の場面 ○個に応じた指導の場面	○主体的に授業に参加する態度を養うと共に、一人一人の学習状況や態度が把握できるように配慮する。 ●ノートの取り方チェック・学習カードの利用 など ○個人の興味・関心や発達段階に合った指導を通して、一人一人の個性の伸長を図ると共に、集団での協調性を養う。 ●ドリル学習・学習カードによる個別学習 など	○主体的に授業に参加する態度を養うと共に、個人の学習能力に応じて、互いに高め合うことのできる学習方法の工夫をする。 ●ノートの取り方チェック・学習カードの利用 など ○個人の興味・関心や発達段階に合った指導を通して、一人一人の個性の伸長を図ると共に、集団での協調性を養う。 ●習熟度に応じた指導・テーマ別学習 など
整理	◆評価の工夫 ○自己評価 ○相互評価 ○教師の評価	○学習の目標を容易に達成できるようにし、達成感が味わえるような評価方法を示す。 ○互いのよさが容易に、かつ具体的に判断できるような評価方法を示す。 ○児童が共感し、次時への意欲がもてるような評価内容にする。 ●認める評価・認める評価 など	○学習の目標を達成段階に応じて評価できるようにし、達成感が味わえるような評価方法を示す。 ○互いのよさが、明瞭かつ具体的に判断でき、自分との相違が確認できるような評価方法を示す。 ○児童が共感し、次時により発展できるような評価内容にする。 ●認める評価・観点別評価・達成度による評価 など
	◆共感的な終末の工夫 ○学校全体で学習したことを確認し合い、学習の達成感を味わわせる。（個人の頑張り）	○学校全体で学習したことを確認し合い、学習の達成感を味わわせる。（個人の頑張りが学級全体へ）	○学校全体で学習したことを確認し合い、学習の達成感を味わわせる。（集団での頑張りが学級全体へ）

○ …… 授業における規範遵守行動化の観点

● …… 授業の中での実践例

Ⅶ 実践事例 3 小中交流集会

(小学校第4学年 特別活動 中学校第3学年 裁量の時間)

1 研究の仮説との関連

(1) 発達段階をふまえた指導

中学生

中学生期は、自己顕示欲が強くなり、他人に認めてもらいたい意識が出てくる時期である。反面、第二反抗期と呼ばれ、主体性のない行動や物事を茶化して安易にすり抜けようとする行動も見られる。このような中学生期に見られる規範意識は、表面的な建前の規範意識が多く、自発的な規範遵守行動が伴っていない場合が多い。

この時期に年齢差のある小学生とふれあうことで、同年代間では恥ずかしいと思われる言動も、規範意識に照らし合わせて実行しようとする意識が、生まれるものと思われる。

小学生

小学校の中学年は、知識欲が旺盛となり、知りたいことも広がってくる時期である。また、友達との関係が深まってくるときでもあり、グループや班での活動を好み、いろいろな友達と交わって、考えや活動が広がっていく時期ともとらえられる。

この時期に、身近な存在である中学生とふれあい、教えてもらうことは、教師や大人からの言葉かけ以上に、挨拶や適切な言葉づかい、目上の人への接し方などの規範意識が育つものと思われる。

(2) 人と豊かにかかわるための指導

中学生

小学生に教えることで、自分以外の他者の個性を理解したり、尊重したりする気持ちがはぐくまれると同時に、年上としての言葉づかいや振る舞いに気をつけるようになると思われる。また、小学生に教える友達の姿を見ることが、友達の新しい面やよさに気づくことも考えられる。

小学生

事前に中学校を訪問し、自己紹介を行うことで、初めて中学生とふれあうという緊張感を和らげ、交流集会を楽しみにする気持ちを盛り上げる。交流集会では、5才上の中学生に教えてもらうために、自ら年上の人に対する態度や言葉づかいに気をつけるようになると思われる。

(3) 自己指導能力をはぐくむための指導

中学生

短い時間ではあるが、自分に任される時間をもたせることで、自ら責任をもって行動しようとする意識が高まるものと思われる。また、小学生に教えることで、誰もが人の役に立ったという自己有用感を充足することができると考えられる。さらに、交流集会を行ったり、ふりかえりカードを活用したりすることによって、自分の新しい面や内面の変化に気づくことも考えられる。

小学生

年上の中学生に誉めてもらったり、優しく教えてもらったりしたことは、直接的ではないにしろ、これからの小学校生活の友達関係にも好ましい影響を与えるものと思われる。また、中学生と接することによって、将来への希望や目標が見えてくることも考えられる。さらに、ふりかえりカードの活用も、自分のよさや変化に気づく手がかりになると思われる。

2 議題 「中学校のお兄さん・お姉さんとの交流集会をしよう」

3 本時に至るまでの活動

(1) 議題設定までの経過

今回、小学生と中学生の交流集会を行うことを小学生に話したところ、大変に興味を示し、どんな内容で交流するか、どんな会にしたいか、どのように運営するか、などの反応がすぐにあった。そのような中で、運営に関する議題が児童から出され、学級活動で取り上げることにした。

今回は、小中交流集会を楽しく行う中で、小学生にとっては6年生よりもさらに年長の人と接することで目上の人を敬う態度を育て、希望をもって生きていけるように展開していきたい。また、優しく接してもらったことをこれからの生活に生かしていくことにも目を向けさせていきたい。

また、中学生にとっては自分よりもかなり年の離れた年少者と接することにより、思いやりをもって対応したり、責任をもって教えることの大変さに気づかせていきたい。また、交流する中で見えてくる自分や他人のよさに気づき、自分を振り返らせていく機会としてとらえていきたい。

(2) 本時までの経過

中学生の経過	小学生の経過
10/27(金) 小学校と中学校の交流集会について知らせる。	
11/ 2(木) 小学生からの中学生に教えてほしいことの内容を伝える。	10/31(火) 中学生から教わりたいことについて話し合う。
11/ 4(土) 自分の得意なことを生かして、小学生に教えられることを聞く。	11/ 6(月) 中学生からの返事を聞き、どのグループに入るか話し合う。
11/ 7(火) 教えられたいことを確認する。	議題を選定する。
11/ 8(水) グループ割りとリーダーを決める。リーダーには活動内容と教える手順を簡潔に書くよう指示する。また、全員に自己紹介カードを書かせる。	11/ 7(火) 学級全員で議題を決定する。活動計画をたてる。
11/10(金) 自己紹介カードを回収する。	11/ 8(水) 学級活動で会の名前、会のめあて、役割分担を決定する。 めあてについては、仲よくしよう・言葉づかいに気をつけよう・話をしっかり聞くなどに決定。
11/10(金) 小学生が中学校を訪問、休み時間を利用し、自己紹介を行う。	
11/10(金) 生徒が考えた活動計画に沿って、～13(月) 役割分担し、準備する。	11/10(金) 役割ごとに事前準備をする。 ～13(月)
11/14(火) 小学校・中学校の交流集会 (本時)	

4 本時の活動

(1) 活動のねらい

- 進んで参加し、楽しい小中交流集会にすることができる。

(2) 展開（活動計画）

小中交流集会の活動計画 11月14日（火） 5校時		
集 会 名	中学生とふれあう会	
め あ て	中学生にめいわくをかけないようにして楽しい会にしよう。	
プログラム	留 意 事 項	はぐくみたい規範意識・行動
1. はじめの言葉 2. 先生から 3. 仲よくなるゲーム (20分)	○全体の流れを確認させる。 ○楽しい中にも規律ある雰囲気 で交流できるように教師 が指導する。	△気持ちのよい挨拶をする。 △話をきちんと聞く。 △互いのことを考えながら活 動する。
4. グループごとの交流 ①手話グループ ②パソコングループ ③数のマジックグループ ④リコーダーグループ ⑤ぬいものグループ ⑥ペーパークラフトグループ ⑦英語グループ (40分)	○小・中担任とも、各グルー プを回り、教え方で困って いる中学生や自分を出せない でいる小学生などに声を かけていく。 ○小学生・中学生のよさを見 出していく。	△気持ちのよい挨拶をする。 ◇ていねいな言葉をつかう。 ◆相手に応じた言葉をつかう。 ◇頷いたり、返事をしたりする。 ◆人を励ます言葉かけをする。 ◆相手の立場を考えて行動する。 △自分や友だちのよいところ を見つける。 △自分や友だちのよいところ を見つける。
5. よかったことの発表 6. 先生の話 ①中学校の先生から ②小学校の先生から 7. 終わりの言葉 (20分)	○互いのよさに気づき、認め 合えるようにする。 (シェアリング) ○中学校の担任は小学生へ、 小学校の担任は中学生へ、 活動の中から見出した内容 でメッセージを送る。	△自分や友だちのよいところ を認める。 △話をきちんと聞く。

はぐくみたい規範意識と規範行動 △…小学生・中学生に共通 ◇…小学生 ◆…中学生

(3) 評価

- 小中交流集会という自覚をもって参加し、規律正しい行動をすることができたか。
- グループごとの活動の中で自分のよさや他者のよさを見つけ出すことができたか。
- 交流集会終了後、地域の兄弟姉妹という意識をもつことができたか。

5 授業を振り返って

(1) 小学生の変容

今回、集会の前に自己紹介の会を行ったことにより、小学生の中学生に対する不安感は

親近感や期待感に変化していった。それが交流集会に進んで参加し、楽しい会にしていこうとする意欲につながった。

実際に交流する中で挨拶・言葉づかい・返事・相手を見て聞く、といった項目については、内在化していた意識が行動化できるようになった。

また、中学生が優しく、わかりやすく教えてくれたことを中学生のよさにとらえ、それを自分たちの意識や行動の中に生かしていこうとする意欲もうかがえるようになったのは大きな成果であった。

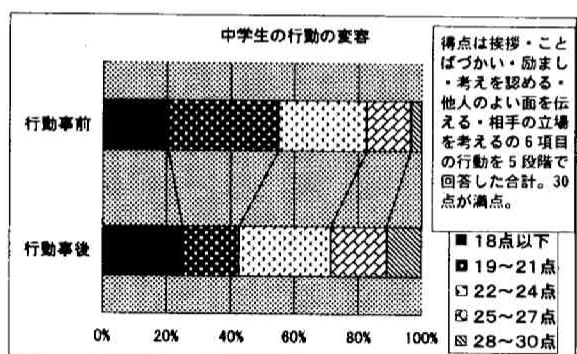
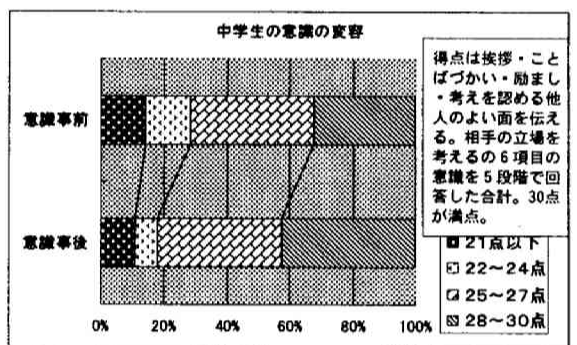
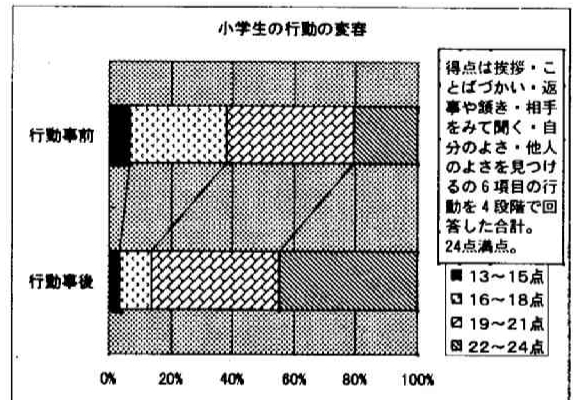
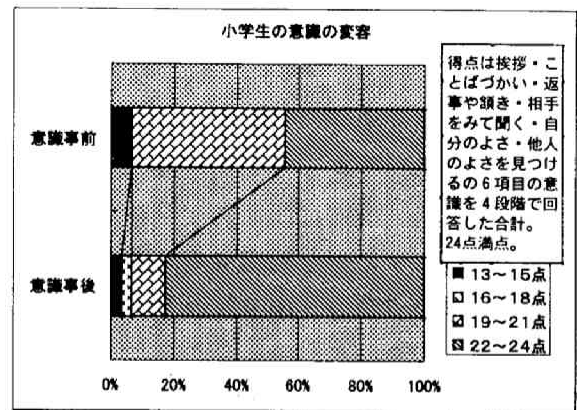
(2) 中学生の変容

最初に交流集会を行うことを話したときには、中学3年生にとって進路を決めていく時期ということもあり、消極的な生徒が約半数いた。また、自分たちの得意な分野の知識や技能を生かして教える自信があるという生徒は極わずかであった。このような中で、教えられそうな7項目を決め、リーダーを一人ずつおき、簡潔な活動計画を書かせたが、思っていた以上に細かく内容が考えられ、今回の授業の見通しがたった。

実際の交流集会では、リーダーを始め多くの生徒が普段とは逆の立場に立たされたことで、生き生きとした表情で活動することができた。小学生に教えることにより主体的な活動を進める意識を呼び起こしたように思えた。また、規範意識や規範行動の変化は、その後の学校生活の中ではなかなか読みとれないものがある。しかし、規範意識を行動化することの大切さに気付いた生徒もいることは確かである。

(3) アンケートの考察

事前・事後のアンケートの得点（グラフ参照）からも分かるように、事後に小学生・中学生とも意識・行動が予想以上に高まった。今回のような意図的なかわりのある交流授業を繰り返すことで、規範意識・規範行動の高まりを期待できるであろう。その際、人間関係に慣れが生じたり、緊張感が薄れたりしないように、「場」や「交流する相手」、「交流の課題」などに変化をもたせる教師側の工夫が必要であると考えられる。



Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 発達段階をふまえた指導は、規範意識をはぐくむ基盤となる。

「発達段階に即した規範意識」「学習活動を通して育てたい規範意識」を明確にすることにより、自己認識や集団の中の自己を高めることができた。

実践授業1（小学校高学年）では、グループ構成やかかわりあいを豊かにする工夫をすることで、人とのかかわり合いの中から規範意識をはぐくんでいく児童の姿が見られた。

実践授業2（中学校）では、規範意識を定着させ、行動化させるために主体性や責任感をもたせる指導に重点をおき、成果が見られた。

実践授業3は、小学生は目上の人とのかかわりかた、中学生は責任感や主体性をはぐくむことに重点をおいて小中連携を行った。規範意識がそれぞれ高まっていることが、事後のアンケートより確かめることができた。

(2) 人とのかかわりを深めることが、規範意識をはぐくませることになる。

グループエンカウンターを活用することにより、人間関係がより一層深まった。

実践授業1、2では、友達とのかかわりを深めながら学習活動を展開し、実践授業3では小・中の交流を行い、人とのかかわりを深めていった。友達や異年齢の人とかかわりが深まるにつれて児童・生徒は、相手の立場を考え主体的な活動をしていくことが分かった。

(3) 活動の振り返りが規範意識のはぐくみを確かなものにする。

シェアリングを用いた指導法により、活動の成果をより一層高めることができた。

実践授業1、2では、「振り返りカード」で自分の活動を学級全体で発表し合ったり、グループ学習のまとめで、互いの考え方や思いを認め合い共有し合う活動を行うなどのシェアリングを取り入れた。また、実践授業3では、授業の終末に教師が活動を振り返り、児童・生徒それぞれにプラスの評価をメッセージとして示した。シェアリングは、“自分”のことだけでなく“他の人”のことも意識させ児童・生徒の共感性を高めていくことが、それぞれの授業で確かめられた。

(4) 自己有用感をもたせることによって規範意識が行動化する。

集団の中の大切な一員であるという自己有用感は、規範意識を行動化に結びつけるものとなった。

小・中の交流集会を行った実践授業3は、中学生は小学生に教えることによって自己有用感をもつことができた活動となった。協力し合い、進んでいい言葉を使っている姿は、規範意識を主体的に行動化していると受け止められる。実践授業1でも友達に自分の動きを受け入れられることによって、実践授業2でも自分の感想が友達に認められることによって、自己有用感が高められ、自我の形成に大きな影響を与えたものとする。

2 今後の課題

(1) 自己指導能力の育成

規範意識をさらに行動化していくには、児童・生徒が絶えず自己を振り返り自己評価を継続し、自分のよさや可能性を理解させていく必要がある。

(2) 小・中学校が連携をした研究の継続

小・中学校の交流集会は、規範意識をはぐくむ上で有効であるが、実施するまでには、双方の教育課程の違いなどから十分に協議し、継続的に交流することが今後の課題となってくる。